2026(令和 8)年度 豊橋創造大学 有識者による外部評価とそれに対する所見・対応等

■保健医療学部理学療法学科

外部評価者：愛知県理学療法士会学習局　卒前教育部部長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科（科）の所見及び対応等
（１）入学者の受入れについて 適切である	本学科では入学者希望者の幅を広げるとともに、理学療法学科希望の高校生のみならず多くの人に理学療法士の仕事について興味を持ってもらうため、商業施設や行政、高校等と連携し、体力測定や職業体験、トレーナー活動などの地域貢献活動を通じて啓蒙活動を継続して行っている。そしてそれらの活動の様子を SNS で情報発信するなど広く広報活動を行っている。 オープンキャンパスでは、総合型入試と連動して理学療法士養成講座や体験授業などを行い、入学希望者に大学での学びや理学療法士の仕事についての理解を深める取り組みも継続して行っている。 また、高い国家試験合格率（2024、2025 年度新卒 100%）を維持できるように国家試験対策にも力を入れている。 入学者の多くが興味を持っているスポーツに関する理学療法については、三遠ネオフェニックスに加え、横浜市スポーツ医科学センターと連携活動を行うことにより本学の特性を強く打ちだしていく予定である。 今後も三河地区唯一の理学療法士養成校であることを積極的にアピールし、学生確保に努めていきたい。
（２）カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果と卒業の認定について 適切である。	カリキュラムについては、指定規則に対して適切に対応してゆけるように見直しを重ねている。現在、次のカリキュラム改定に向け、学生が知識や技術を習得しやすいように授業の積み重ねや臨床実習の時期、内容について検討を行っている。大学における学び方については初年度の基礎ゼミナールにおける学び方指導や、学修サポートセンターの積極的

	な利用を促し学習支援を行っている。 　卒業認定については、理学療法総合演習Ⅱにおいて最終的な能力の確認を行っている。
（３）本学の教育活動全般について 適切である	本学科は「地域の健康生活を支える理学療法士になる」という目標をもとに教員全員で各専門性を生かし、理学療法士育成に取り組んでいる。スポーツに関しては横浜市スポーツ医科学センターと連携するほか地域のスポーツ活動にスポーツトレーナーサークルなどを通じてボランティアとして協力する等、積極的にかかわっている。 　小児領域においても専門病院の協力で授業や臨床実習において学習しやすい環境を作り、専門的な知識および技能を習得する機会を増やしていくことを心掛けている。
（４）その他（研究活動等） 適切である。	本学科教員はそれぞれ専門学会に所属し、高度な専門的知識と技術を持つことで研究活動は活発に行われ、科研費等も積極的に獲得している。これらは教育に反映され、希望する学生は大学院へ進学することも可能となっている。今後も、各教員による専門的知識と技術の研鑽を継続し、魅力ある大学教育へ繋げていきたい。

2026(令和 8)年度 豊橋創造大学 有識者による外部評価とそれに対する所見・対応等

■保健医療学部看護学科

外部評価者：愛知県看護協会　常務理事

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科（科）の所見及び対応等
(1)入学者の受け入れについて ① 適切である 入学者受け入れについては適切と評価だが、次の助言もいただいた。 アドミッションポリシーに「多様な価値観の受け入れ」「思いやり」「他者と協働」「社会貢献」等の現在の看護に求められる要素をうたい、総合型選抜・学校推薦型選抜、一般選抜を中心に多様な入試形態を実施しており、広く入学の機会を提供しています。定員充足率では 4 年続けて定員を下回っており、令和 7 年度は 80%になったが、今年度は 13 ポイント低下し 67%となっています。また、令和 7 年度より「新入学生確保特別委員会」を設置し、オープンキャンパスを中心に「職業観を育成する講座」を開催、これと連動した育成型入試の導入を進める等、大学の魅力発信に努力されていることはとても素晴らしいと思います。今年度は入学者増に結び付いていませんが、高大連携事業にしっかりと取り組まれていますので、地元に根差した学生確保に向けた取り組みが、よい成果につながることを期待しています。	成果は十分ではないものの、取り組みにご理解頂き感謝申し上げます。業者の分析を踏まえ戦略的なオープンキャンパス開催、入試形態の変更、また大学近辺の中学生を対象とした広報活動にも取り組んでおり、本学も成果を期待しています。
(2)カリキュラムの内容。学修方法・学修支援・学修成果について ② 意見・要望あり ディプロマ・ポリシーを再検討され、カリキュラムの改定に取り組まれています。理解しやすい表現になっていますが、具体的に何がどのようにできればよいのか、学生が理解し学習を進めていけるよう、しつかりと説明の機会を設けていただきたいと思います。	ディプロマ・ポリシーをふまえ、具体的に何ができればよいのか、学生が学習を進めていけるような説明の機会を設けることについてです。 学修進度に沿うように順序性のある科目配置としており、科目のシラバスは学生が理解しやすい具体的な表現であるよう心掛けています。さらに教員相互のピアレビューによりシラバスチェックを

留年者はかなり減少しており、努力の成果と思われます。しかし、退学者が 15 名と令和 7 年度より 3 名増加しています。リメディアル教育等の学習支援については以前より検討されていますが、1 年次の退学者が多いため、きめ細かい支援について、さらに工夫をしていただくことをお願いします。 以下の助言もいただきました 改定されたディプロマ・ポリシーの表現はわかりやすいと思いますが、学生に意図をしっかりと伝えていただきたいと思います。 カリキュラムは指定規則に則って適切に編成されています。また、2022 年度入学生からの新カリキュラムの達成状況を評価し、見直しされていることはとても素晴らしいと思います。基礎看護学に「看護コミュニケーション論」を新設し、コミュニケーション能力の強化を図ってみえますので、各領域の看護学や臨地実習に活用できるよう、教育内容を共有し、評価をしていただくことを期待しています。また、昨年度、カリキュラムの見直しにおいて、領域を横断するような科目構築も検討するとのことでしたが、看護実践に必要な能力を重複なく効果的に身につけていくためのカリキュラム編成について、さらなる検討を続けていただきたいと思います。学生支援では、学年別チューター制度とし、必要時個別面談を行うなど、手厚い支援を継続されています。また、学習室を設ける等、学習環境の整備にも努め、国家試験も高い合格率が継続していますので、先生方のご努力の結果と思います。	しています。入学時ガイダンスでは、教務委員会がディプロマ・ポリシーについて説明をしています。しかしながら学修進度に沿った学年ごとの具体的な到達度の説明も必要と考えますので、今後教務委員会を中心にディプロマ・ポリシーの学年ごとの到達度を検討する必要があると思います。それにより新年度のガイダンスでは 2 から 4 年生に対して具体的な目標を説明できます。 看護実践に必要な能力を重複なく効果的に身につけていくためのカリキュラム編成についてです。文部科学省より、看護学教育モデル・コア・カリキュラムが示されました。看護学におけるコンピテンシー基盤型教育への転換であり、2040 年に向け社会が看護学教育に求める人材像をふまえたコンピテンシーに基づくアウトカムを設定します。つまりコンピテンシーに基づく卒業時の資質能力を具体的に設定する必要があります。本学も今年度より看護学教育モデル・コア・カリキュラムをふまえた検討を進めていく予定であり、カリキュラム編成について、検討を継続していきます。 留年者は減少したが、退学者は 15 名と前年度より 3 名増加していることについてです。 本学を選択し入学した 1 年生の退学が多いことは、大変残念に思っております。受験生減少に伴い入学生の学力も幅広くなったため、1 年次の科目履修ですでに学修継続が困難と感じる学生、自分の希望ではないが周囲の大人に進められて入学した学生が増加しました。そのため 1 年次に退学の学生が一定数存在すると考えます。学生支援は継続するとともに、看護職を強く希望する受験生を獲得するために、入試制度を変更し、アクティブ入試に「スポーツ・文化芸術枠」を設定しました。高校時代に何かに集中して取り組むことができた学生は、入学後も目的に向かって気持ちを継続し取り組むことができると考えます。

(3)本学の教育活動全般について ① 適切である 以下の助言もいただきました。 少子化に伴う 18 歳人口の減少や学校間競争の激化等により、学生確保はますます困難になると推察されます。理事長のリーダーシップのもと、大変な努力をされていることが窺われますが、縮小に向けた討議ではなく、収入面の強化を図るべく取り組まれていることはとても素晴らしと思います。ぜひ、地域とのつながりを強化し、存在価値を高めるような発展的な検討をしていただくことを期待しています。就職支援では、年々早まる採用試験や第一希望不採用の学生の状況を分析し支援方法を検討する等努力されています。採用試験が早まっていることで、十分に適正を考えることができずに就職先を決定せざるを得ない状況もあるかと思いますので、引き続き手厚い支援をお願いいたします。	本学は地方の私立大学であり、これまでも地域で活躍できる人材の育成に尽力されてきたようです。大学の理念に基づき地域に求められる大学であるように、看護学科も取り組んでいきたいと思います。 就職については、ご指摘のように十分に適正を考えずに就職先を決める学生もおります。1 年次からキャリア形成について考える機会を持てるよう基礎ゼミナールで指導しており、その後もキャリアセンターと就職委員の先生方を中心に就職支援をしております。できるだけ適性をふまえ就職し、継続して看護職として活躍できるよう支援していきます。
(4)その他 ② 意見・要望あり 南海トラフ地震も予測されていることから、学生の防災意識の強化や、さらなる安全性の確保に向け施設の整備や備蓄品の確保等、 対策の強化をお願いします。 以下の助言もいただきました。 地震防災対策の改修工事は適時実施されているとのことですが、令和 8 年熊本地震の発災においても、様々な想定外の事態が起こっています。南海トラフ地震では、東三河地域において大きな被害が予測されていますので、この機会に学生の防災意識を高めたり、地域での役割について改めて見直す機会にしていただきたいと思います。	本学全体で、年に 1 回防災訓練を実施しております。また豊橋市からの依頼もあり「豊橋市の防災訓練」にボランティアで学生が参加しています。防災意識を高めることにつながっていると思いますが、熊本地震の発災状況からは多くの教訓がありました。災害時学生の安全を守るためには、安否確認のシステムが適切に使用できるようさらに意識づけが大切と考えます。また、看護系大学として災害時地域でどのような役割を担うことができるのか、豊橋市と検討していきたいと思います。

2026(令和 8)年度 豊橋創造大学 有識者による外部評価とそれに対する所見・対応等

■経営学部経営学科

外部評価者：豊橋商工会議所　ビジネスサポートセンター長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科（科）の所見及び対応等
(1) 入学者の受け入れについて ① 適切である インターンシップなど地元企業との密着型・実践的かつ継続的な活動がみられる。また、地元を意識した職業観の変化や社会の雇用情勢を踏まえたキャリア形成科目も設定されている。本年は定員数において充足率が低下したが、今後も、さらに社会性を高める実践的な活躍（特に地元企業との密着性など）を露出させ、地域一体となった入学者へのアプローチに期待したい。	本学部の特徴の一つが、プロジェクト活動やインターンシップなど、実践的な学びの場としての地域社会・起業との密度の高い連携である。定員数の充足率の改善は、未だ道半ばであるが、これらの点をアピールしながら、今後もその改善に努める。その中で、在学生のみならず、卒業生の社会での活躍を発信する具体策を検討するとともに、過去の講座受講生との連携など地元企業との密着性の強化策を検討していきたい。
(2) カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果について ① 適切である 1年次より進路・就職を意識したキャリア関連科目を展開し、キャリア教育に力を入れている。また東三河をテーマにした学科横断型カリキュラムも導入されており、今後も地域への理解度・密着度を高める活動に期待したい。 また、高大連携事業による高校との連携事業やのんほいパークもりあげ隊！をはじめ 5 つの地域連携プロジェクトを実施するなど、地域企業・行政との密着度を高めている。	インターンシップへの 2 年次学生の参加者数が年々増加していることから、実習受入先企業を拡大しながら連携の強化を図りたい。 地域連携プロジェクト活動に対しては高い評価を頂き、連携先機関からは毎年新たな要望を頂くなど、密着度は年々強まっている。今後、活動内容や成果をより広く地域社会に発信することで認知度を高め、新たなニーズを発掘しながら地域のさらなる活性化に貢献できるよう努めていきたい。また、姉妹校をはじめとする域内の高校との連携事業にも力を入れ、教育面での地域貢献にもこれまで以上に積極的に取り組み、地域との密着度を高めていきたい。
(3) 本学の教育活動全般について ① 適切である 少子化の中で、知名度の高い国立大学や私大との競合が激化する中	本学の教育理念「地域密着の大学として職業研究を行い、その過程において人間的な成長を促す」に則り、今後もインターンシップやプ

で、地 域産業の高いポテンシャルを十分に理解し、地域社会に役立つ実践的な教育をポリシーに掲げながら活動を行っている。今後も、さらに地元企業と地域産業の 発展・振興につながる地元密着型の大学としての活動に期待したい。	ロジェクト活動、各種講座の開催等で地域社会・地元企業、高校との連携を強化し、地元密着型の大学として期待に応えらえるよう取り組んでいきたい。

2026(令和 8)年度 豊橋創造大学 有識者による外部評価とそれに対する所見・対応等

■大学院健康科学研究科

■外部評価機関（外部評価者）：豊橋市民病院及び豊橋市保健所における本学が委嘱した職員

※大学院健康科学研究科の外部評価を実施する「豊橋創造大学大学院健康科学研究科の教育活動に関する協議会」内で実施

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科の所見及び対応等
入学者の受け入れについて ① 適切な学生数の確保のための対策が必要である。 成人学習者の獲得のためには、動機づけとタイミングが重要である。可能であれば身近なロールモデルある、現在 BP プログラムを活用もしくは、活用したことがある人にボランティアで研究支援に出向いてもらうなどして接触できると動機づけの効果が大きい。また、看護師のタイミングとしてはベナー理論の 3 段階目の Competent の時期ではないかと考える。この時期は現状を維持しながら学びを深める、または現状を大きく変化させるリスキリングの時期であり、この時期に BP プログラムの情報をキャッチできる環境が必要である。【豊橋市民病院】 ② アドミッション・ポリシーに沿った周知はできているが、定数受け入れできていない現状であり、学生にとって魅力的なメリットが必要だと思う。(時間的支援・金銭的支援・社会的価値など)【豊橋市保健所】	①ご指摘の通りである。定員未充足の状態を解消すべく、情報発信の強化やチャネル（手法）の多様化などを通して努力する。 ②ご指摘の通りである。教育訓練給付金制度の指定講座の再指定に向けて努力していきたい。
学修支援について ①外国人留学生に対する入試制度を上手く活用し、コロナ禍以前のように受け入れできると良いと思う。	①ご指摘の通りである。定員未充足の状態を解消すべく、情報発信の強化や手法の多様化などを通して努力する。
教育活動（教育課程の編成等）について なし	

プログラム修了後の修了者の状況について ①その後の就職状況だけでなく具体的な研修成果の利用法、現在の取り組みなどがわかるとなおよいのではないか。 HP では進路が具体的に示されていない（カテゴリー名称のみで、企業・機関などの実名や実数は不明。可能なら表示を！アンケート結果も見当たらない）。【豊橋市民病院】	①Website での情報発信法について再度見直し、情報開示項目などの充実に努めていく。Website で公開していた「本研究科修了生の声と修了生アンケート結果」は、リンク先が誤っていたので、正しく表示されるようにリンク先を修正した。現時点（2025 年 3 月 31 日）では、正しく表示されていることを確認した。
教育活動全般について なし	
教育活動について個別の視点 ① 総論として述べてあるが、卒業後の進路、活躍状況をもっと具体的に示すか、卒業生の声などの形で本学の学修が、具体的にどう役立っているか、今どのような研究に取り組んでいるかとか、どんな仕事に就いているかなどをもっと具体的に固有名詞を出して示した方がわかりやすいのではないか。【豊橋市市民病院】 ② 職場のリーダーになりうる、研究計画・企画・改善への取り組みができるプログラムをして欲しい。【豊橋市民病院】 ③ 豊橋創造大学在学中も、研究に力を入れていると感じている。その後に大学院に入ることで、研究面で今以上に学べるメリットと必要性を感じられるようなアプローチが必要だと思う。【豊橋市保健所】	① 修了生の声を Website に掲載しましたが、大学院での学修とその成果についての発信を強化していきたいと考えています。 ② 問題解決能力の獲得を中心に、大学院で身に着く能力を簡潔にわかりやすくアピールしていく。また、学修成果として「職場のリーダー育成」を掲げると共に、教育プログラムとして内容の充実を図っていく。 ③ Website 上などで、学修成果としての「研究」の必要性とメリットについて説明の充実を図っていく。
その他 ①自己点検はよいが、その後の就職状況だけでなく具体的な研修成果の利用法、現在の取り組みなどがわかるとなおよいのではないか。【豊橋市民病院】 ②以前より大学院への興味をもつ職員が減ってきている。広報活動の工夫がより必要と思う。身近で話をしていただけると良いかと思う。そして、社会人にとってのメリットが具体的に提示すると良い	①大学院で身に着く能力と実践の場での利活用などについて、簡潔にわかりやすくアピールしていく。 ②ご指摘の通りである。情報発信の強化やチャネル（手法）の多様化などを図っていく。

と思う。【豊橋市民病院】 ③定数人員の３分の２が確保でき、補助金を再度、受けることのできる環境を整えることが必要。【豊橋市民病院】 ④修士課程で時間をかけて研究を進める中で、様々な経験や課題を解決する能力が養われることは、年代を問わず必要なことだと感じる。就職後にその成果が活用できるよう、社会において人事制度なども充実されるといいと思う。【豊橋市保健所】 ⑤研究科のアンケート結果が３段階評価でコメントなどもあったが、加えて、細分化した評価項目があってもよいのではないか。【豊橋市保健所】	③ご指摘の通りである。定員未充足の状態を解消し、教育訓練給付金制度の指定講座の再指定に向けて努力していく。 ④問題解決能力の獲得を中心に、大学院で身に着く能力を簡潔にわかりやすくアピールしていく。また、学修成果として「職場のリーダー育成」を掲げると共に、教育プログラムとして内容の充実を図っていく。 ⑤研究科アンケートについて、項目などについて再検討する。